

在宅鍼灸医療を推進するための会開催のお知らせ

公益社団法人 東京都鍼灸師会
介護予防委員会委員長 松浦 正人

8月11日（日）、今年度第二回目の
「在宅鍼灸医療を推進するための会」を開催いたします。

今回は「鍼（擦過鍼）による皮膚刺激による認知症状改善」の実際を吉村春生先生（大阪府鍼灸師会）をお迎えして実技をメインにご紹介します。

吉村先生は現在までに延べ5000名の認知症患者（グループホーム入所中）の在宅鍼灸医療を実践されています。

グループホームでの活動方法からその実技まで紹介していただき参加者全員が実技内容を覚えられるような講習を予定しています。

自律神経を介して認知症改善や尿失禁改善を研究されている堀田晴美先生（東京都健康長寿医療センター研究所自律神経機能研究室研究副部長）は皮膚刺激特に四肢への刺激で脳血液循環が改善されること。皮膚への刺激方法は「摩ること」がベストだが「鍼」でも同様な効果があることを研究されています。

超高齢社会に向かっている現代、軽度認知障害（MCI）や認知症は大きな社会問題であり、その対策が注目されていることは周知のとおりです。

認知症状を改善する一つの方法を知り、鍼灸師が貢献できる方法を知っておくのは在宅鍼灸を推進するために必要不可欠かと考えます。

また、病気や高齢そのものにより生活上の不具合を生じ介護保険を利用している高齢者は年々増えています。

在宅鍼灸医療を考える時に「介護保険」は欠かせないものとしてもよいでしょう。今回は介護保険の仕組みを学習してその知識を基に在宅鍼灸を推進できるようにと考えています。

現在そして将来のニーズに対応できる情報と知識を習得していきましょう。